

第 14 回大学教育研究セミナー

「学生が学べる仕掛けをどう作るか」 【ワークショップ型セミナー】

教育に関する各種調査・研究と、就業力育成支援事業から見てきたもの

1. このワークショップ型セミナーの発端

去る 12 月 2 日に開催され、参加して下さった皆様に好評だった第 13 回大学教育研究セミナー「学生の考える「大学での学び」 文学部・文学研究科教育促進支援機構の事例から(話題提供：文学研究科 福島祥行先生)」の事後アンケートで、次のような趣旨のご意見をいただきました。

企画型/少人数型教育を参加者が共に企画する(紹介+質問ではなく、参加者がグループワークを行う)形式のセミナーがあってもよいのでは？

今回の大学教育研究セミナーは、いただいたご意見を参考に、試行的な意味も含めて【ワークショップ型】で開催してみようとするものです。

2. ワorkshop型セミナーのねらい

大学を取り巻く各種状況がいかに変化しようとも、大切に守っていくべき教育が本学にはあります。その中でも代表的なものが、本学の(おそらくは相当数の)教員が教育的な意義を実感しているであろう「少人数からなる教育環境」と、それを活用した「学生が自ら学ぶ場作り」でしょう。

しかしながら現実には、解決すべき問題がいろいろと存在します。たとえば、少人数クラスを多数作って実質的に運営すればするほど、ファシリテーションや評価にかかわって発生する教員側の労力もまた大きくなります。それらの労力を、担当する教員だけでまかないつつ現状の教育クオリティを保つのは、今後難しくはなっても易くなることはないでしょう。

セミナー当日は、**学生が学べる仕掛け(あわせて、教員も楽しみながら、頑張りすぎずにいられる仕掛け)を組み込んだ教育のあり方・可能性・どんなことがしたいのか・できたらいいのか**を、正課・正課外を広く含め、お集まりいただいた皆様に自由に考え、語り、できることから一歩を踏み出していただければと思います。

第 14 回 大学教育研究セミナー

日 時： 2012 年 1 月 13 日 (金) 13 時 00 分～14 時 30 分

場 所： 全学共通教育棟 2 階会議室

導入トーク&進行：大学教育研究センター 渡邊 席子